

萌葱の郷実践研究会原稿要旨

テーマ：発達支援の共有化と保育の専門性を伝達することに向けた研究

要旨：保育所保育指針に基づいた保育内容と、保育の実践的な専門性を関係諸機関で共有化させることにより、保育に欠ける児童への支援の充実を目指す

氏名：五十嵐猛

所属：豊後大野子育て総合支援センター

発達支援の共有化と保育の専門性を伝達することに向けた研究 豊後大野子育て総合支援センター いぬかいこども園 園長 五十嵐猛

1、はじめに

当法人は大分県で唯一の自閉症支援施設であり、発達障害児者支援のノウハウについても見識が深いことから平成17年より発達障害者支援センターの委託を受けて運営しています。

当センターは、大分県発達障害支援専門員養成研修によって大分県下の発達支援に関わる支援者の専門性向上とネットワーク化を推進することができており、保育所や施設、学校等の諸機関とも深い協働関係を築くことができています。

こうした経緯から、平成24年には大分県豊後大野市から犬飼保育園と地域子育て支援センターを引き継ぐことになり、平成27年には子ども子育て支援新制度に伴って幼保連携型認定こども園に移行するとともに、地域子育て支援センターと児童発達支援センターを隣接させることで、障害の有無や園の在籍如何にかかわらずに地域の子育て家庭全般に向けた支援をすすめてきました。また、当園が位置する犬飼町は大分市に隣接していることから、広域利用者を通して大分市内の関係諸機関との交流もあり、要保護家庭を含めた広範囲の家庭支援を行っています。

豊後大野市内には、公立認定こども園が1園、認可私立保育園が3園、私立認定こども園が8園、事業所内保育所が2園あるのですが、年々少子化は進んでおり、過疎化や人口が減少している反面、核家族化や女性の就労の増加などと、育児環境は著しく変化しています。その結果として子育て家庭の孤立、貧困、虐待問題といった、子育ての困難、気になる子ども、気になる保護者に対する支援がより多く求められるといった課題が浮かび上がっており、こうした課題に向けて各保育園が行政機関や児童発達支援センターを始めとする関係諸機関との協働や連携を進めることが望まれた結果、大分県独自で保育コーディネーターの養成を進めるとともに、その活用に合わせて保育園と関係諸機関が連携していくためのツールも求められてきています。

こうした子育て支援情勢の中、気になるこどもの支援のみならず、待機児童や保育士不足といった社会的な問題も含めて保育の専門性を諸機関で生かすことを目指した研究を進めてみました。

2、研究の視点

関係諸機関との協働支援をすすめていくためのツールとして、大分県発達障害者支援センターにて作成した発達支援ファイルを発展させる構想をしていたところ、実際に保育所を運営していく中で、集団に馴染みにくかったり、人間関係を育て難かったりする児童が就学後にも保育が引き継がれていく必要があることに気づき、保育所保育指針に基づいて

保育士の専門的視点で記された保育経過記録を関係諸機関と共有することを想定してみました。

具体的には、児童の発達経過を可視化することで個々の発達を比較しやすくさせ、こども一人一人の発達課題や、特性、合理的配慮、教育保育の内容等を共有・引き継ぎをやすくしていきたいと考えています。

また、切れ目のない支援に向けて保育コーディネーターが保護者を始めとする関係諸機関と本保育経過記録を共有していただくことを平成28年度の大分県保育事業大会にて宇佐市公立保育所の保育コーディネーターと協働研究した結果や、大分市認可私立保育園での保育コーディネーターフォローアップ研修にて寄せられた事例をもとに、チャートから発達課題や対応を読み取ることも検討したいと考えています。

3、成果予測

チャートで示された発達経過を保護者や関係諸機関とも共有することによって、保育の専門性を有しない者でも客観的に子どもの姿を捉えやすくなり、保育者と同じ目線で子どもの発達を考えやすくなることが考えられます。また、こどもの発達段階が図形で捉えることにより、園内職員を始め保護者や家族を支える関係機関とも課題認識や成果を共有しやすくなることも期待できます。更には、4回にわたる発達記録の中で環境と発達との関連性についても理解が一層深まることも予測することができます。

4、研究の経緯

平成28年 4月～1月	宇佐市立保育所4園の職員とともに、平成28年度大分県保育事業研究大会に向けて、保護者や関係諸機関と保育経過記録の共有化について研究する。
平成29年 2月～4月	保育経過記録のレーダーチャートを作成する。
平成29年 6月	いぬかいこども園園内研修にて保育経過の確認と記録の仕方について検討する。
平成29年 8月	フレール館本部にてレーダーチャートを紹介する。
平成29年 8月	大分県発達障がい者支援専門員の会にて紹介する。
平成29年 10月～	大分県保育コーディネーターフォローアップ研修にて事例を検討する。
平成29年 1月	大分県発達障がい者支援センター講演会にて公開予定。
平成30年 2月	豊後大野子育て総合支援センター研修にて各項目についての共通理解を行う。

5、研究内容

①保育経過記録の紹介

保育経過記録は、大分県保育士会が保育所保育指針をベースにしながら発達経過を観察しやすくなるために、1～5歳の年齢別に養護と5領域の育ちを表にしたものであり、大分県下の保育所の殆どが4期に分けて全園児の記録を行っています。

項目			1期	2期	3期	4期
			歳/ヶ 月	歳/ヶ 月	歳/ヶ 月	歳/ヶ 月
養護	保持 生命の	・快適に生活できている。				
		・健康で安全に過ごせている。				
		・生理的欲求が十分に満たされている。				
		・子供の健康増進が積極的に図れている。				
	安定 情緒の	・安定感を持って過ごせている。				
		・自分の気持ちを安心して表すことができている。				
		・周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれている。				
		・心身の疲れが癒されている。				
教育	健康	食事	・健康な生活リズムを身につけ、食事をする。			
			・食事の仕方がわかり、友達と喜んで食事をする。			
			・箸を正しく持って食べる。			
			・健康に関心を持ち、好き嫌いをなく食べようとする。			
			・食事には主食、主菜、副菜があることがわかる。			
			・好き嫌いをしないで、よく噛んでなんでも食べようとする。			
			・こぼしたら自分で始末する。			
			・食事の準備、後片付けを自分でする。			
			・正しい姿勢で食べる。			
			・食前食後の当番活動を喜んでしようとする。			
	排泄	・排泄の後始末ができるようになる。				
		・便器を汚さないで使う。				
		・排泄後の手洗いをきちんとする。				
	睡眠	・午睡や休息を自分から進んでする。				
		・早く目覚めたり、眠れなかったときは、静かに横になって休息する。				

教育	健康	着脱	・午睡の準備や片付けの手伝いをする。				
			・衣服の着脱を順序よく行う。				
			・脱いだ衣服は丁寧にたたみ、片付ける。				
			・乱れた衣服を直そうとする。				
			・衣服の調節をする。				
			・靴の左右をまちがえずにはく。				
		・帽子の前後を知ってかぶる。					
		清潔・安全	・身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。				
			・自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。				
			・手の表裏や指の間を注意して洗い、きれいに拭く。				
			・うがいの意味を知り、進んでうがいをする。				
			・鼻水が出たら、自分でかむ。				
			・歯の大切さを知り、歯磨きを丁寧にする。				
	・汚れた衣服を進んで着替える。						
	・身体の異常を自分から訴える。						
	・危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する。						
	健康	清潔・安全	・避難訓練では、指示に従って機敏に行動する。				
			・交通ルールを知り守ろうとする。				
			・園内外の大小の遊具などの使い方がわかり、安全に遊びを展開する。				
運動		・自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。					
		・保育所(園)における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら、見通しを持って行動する。					
		・友達と一緒に様々な運動をし、積極的に遊ぶ。					
		・はさみで紙を直線にそって切る。					
		・前転が正しくできる。					
		・片足で数歩跳ぶ。					
		・はずむボールをつかむ。					
・縄跳びを使って両足跳びをする。							
・スキップやギャロップができる。							
・水を怖がらずに顔をつけることができる。							
・タオルやぞうきんをしぼることができる。							

		・固結びができる。				
人間関係		・安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり親しみを持って自分から関わろうとする。				
		・保育士等や友達などの安定した関係の中で、意欲的に遊ぶ。				
		・自分で思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。				
		・友達と積極的にかかわりながら、喜びや悲しみを共感し合う。				
		・友達と一緒に活動の中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ。				
		・良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。				
		・友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気づき、守ろうとする。				
		・手伝ったり、人に親切にすることや、されることを喜ぶ。				
		・ジャンケンの勝ち負けがわかる。				
		・共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。				
		・身近な友達との関わりを深めるとともに異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持つ。				
		・高齢者をはじめ、地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。				
		・外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。				
環境		・安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。				
		・好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しむ。				
		・自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づく。				
		・生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。				
		・季節により、自然や人間の生活に変化のあることに気付く。				
		・共同のものを大切にし、譲りあって使う。				
		・身近な物を大切にする。				
		・身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。				
		・自然などの身近な事象に興味を持ち、遊びや生活に取り入れようとする。				
		・生活時間に関心を持ち、守ろうとする。				
		・自分のもの、人のもの、共同のものとの区別がつく。				
	・近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所(園)以外の行事などに喜					

		んで参加する。				
		・日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。				
		・日常生活の中で簡単な標語や文字などに関心を持つ。				
教育	言葉	・保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとする。				
		・保育士等と、一緒にごっこあそびなどをする中で、言葉のやりとりを楽しむ。				
		・したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、わからないことを尋ねたりする。				
		・見たこと、聞いたことを、話したり、疑問に思ったことを尋ねたりする。				
		・日常生活に必要なあいさつをする。				
		・簡単な伝言、質問、応答をする。				
		・絵本や童話などの内容がわかり、イメージを広げて楽しむ。				
		・生活の中で必要な言葉が分かり、使う。				
		・数の概念がわかる。(5まで)				
	・左右がわかる。					
	表現	・生活の中で、様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりして楽しむ。				
		・自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりすることを楽しむ。				
		・様々な出来事の中で、感動した事を伝え合う楽しさを味わう。				
		・感じた事、考えた事を音や動きなどで表現したり、自由に描いたり、作ったりする。				
		・水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。				
		・いろいろな用具や器具に関心を持ち、大切に扱う。				
		・保育士等と一緒に歌ったり、遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして、楽しむ。				
		・音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりして楽しむ。				
		・見たり聞いたり想像したことを喜んで描く。				
		・日常生活の中で文字や記号に関心を持ち、伝える楽しさを味わう。				
・身近な生活経験をごっこ遊びに取り入れ、遊ぶ楽しさを味わう。						
・お手本を真似て十字を描ける。						

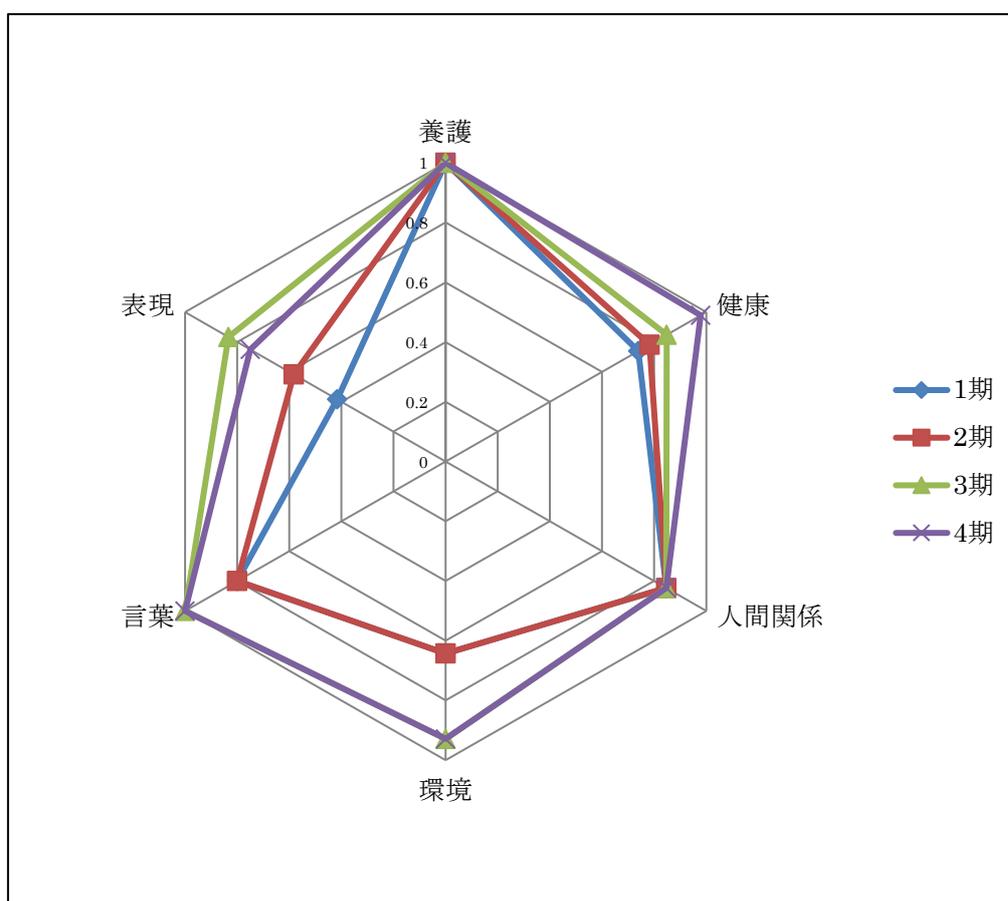
大分県下の公立や認可保育施設では、この表に基づいて園児の個別の発達段階を確認しながら保育目標や保育計画を立てているところですが、配慮の必要な子どもについては、この表を活用することなく、遠城寺式や田中ビネー検査などの検査を臨床心理士に依頼することで課題を明らかにさせ、保護者をはじめとする関係諸機関や園内における配慮を検討しています。

しかし、これらの検査を行うにあたっては保護者の了承を得る必要があることから、気になる段階での実施は保護者や保育者からの聞き取りが必要になるといったアンビバレンツな問題も抱えており、2時間程度の検査のみでは幼児期の発達を的確に捉えることも難しいという課題も生まれています。

そこで、本保育経過記録は全園児に対しての記録を残すことが義務付けられているとともに、担任となる保育士が専門的な視点で1年間を4期に分けて記録を残していることから、本記録の活用をすすめていくことで、保育の専門の見地から児童の成長も含めてより具体的な発達を把握できることや、気になるお子さんに向けても保護者を始め、関係諸機関や園内職員の共通理解もすすみやすくなっていくことが見込まれます。

また、その効果を高めるために図1のようにレーダーチャートを使って可視化してみることにしました。

図1



②園内における事例検証

本データを園内で共有化することに向けて保育経過を記録するルールを職員間で再度意思統一を行う必要に迫られたため、以下のルールを設定して、共通の視点でチェックを行うようにしました。

- ◎養護は、家庭状況をもとに一般的な常識で判断すること
(お風呂は毎日入っているか、朝食を食べて来ているか等)
- ◎異文化については、外国人に限らず、障害者でも可とする
(障害者施設との交流等)

◎地域や行事に関しては、交流祭や高齢者施設への慰問等、外部への参加に抵抗や課題を持たなければ可とする

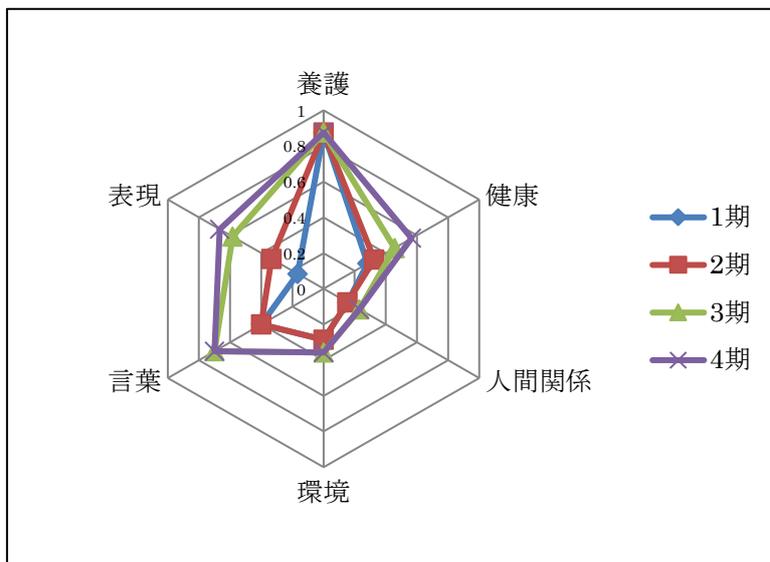
また、各項目の達成度に向けた判断や方針、意図や具体的な関わり方などについての共通理解をすすめるためには手引き書が必要になるとの意見から、園内研修にて教育保育要領解説書を持ち寄りながら、各項目を題材にした意見交換を行うことになりました。

・発達障害児と被虐待児の相似について

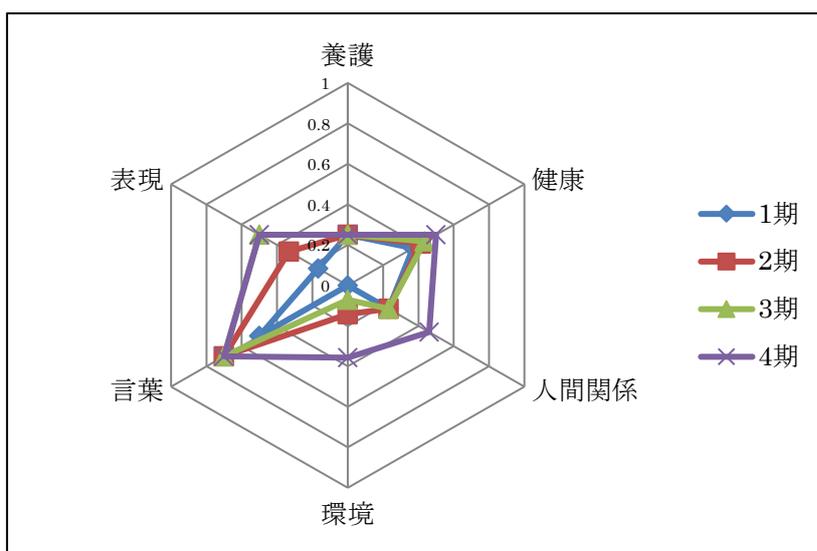
5領域内における発達の遅れや偏りの面では目立つ点は相似していますが、養護面での評価に違いがあることから、家庭環境と器質面に向けて異なる配慮が必要であることが考えられます。具体的には、両タイプとも発達に偏りのある部分への配慮が必要ですが、Bタイプの児童は、まず、生活環境の見直しに伴って人間関係や環境適応の発達が促されることが期待できることに比べて、Aタイプは養護面に課題がないことから器質的な特徴への理解と支援が主に必要とされていることがうかがわれます。その結果、B児は第一に家庭環境の改善や保育園内では養護的な関わりに比重を置くことが重要であり、A児は器質的な特徴について、保護者を始め保育や支援に関わる者が共有していくことが大切であると認識することができます。

具体的な事例としては、A・B児ともに運動会の練習場面にて集団への参加がすすみにくい様子が見られた時に、器質的特性から参加する意図を共有できにくいA児には保護者や周囲の期待と評価を伝えることで本人がクラスへの帰属意識を持てるように配慮しましたが、B児の場合は生活環境上、保護者との愛着関係の成立が不十分であることから周囲の友達よりも担任の注目を自分に向けたい気持ちの方が強いことを職員間で共通理解を行い、キーマンとなる担任からの個別的な期待や評価が伝えられる機会づくりに配慮するようにしていくことで、発達に変化がみられるようになっていきました。

図A



図B

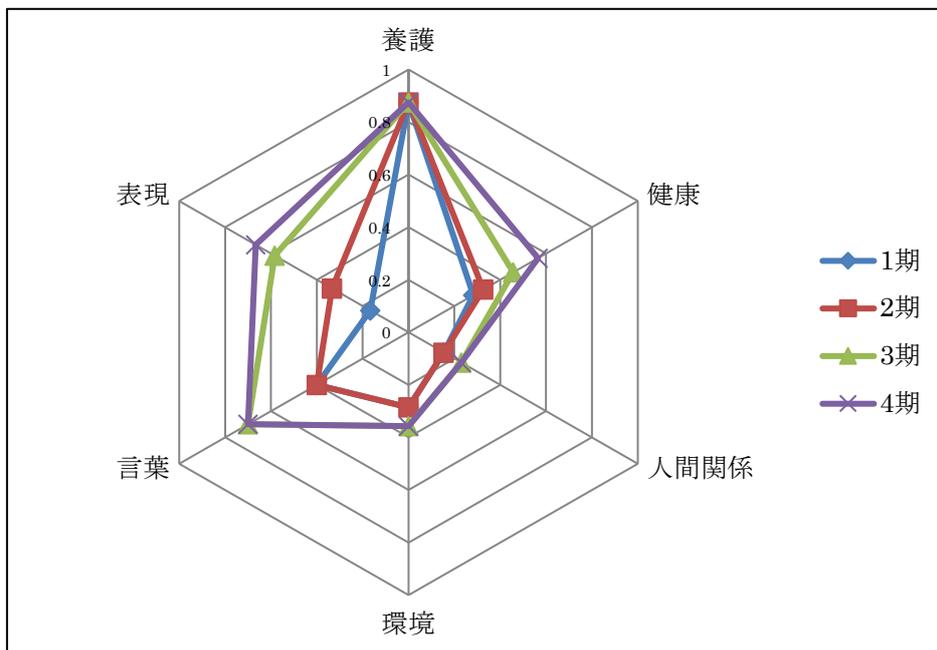


・発達障害児と知的障害児の違いについて

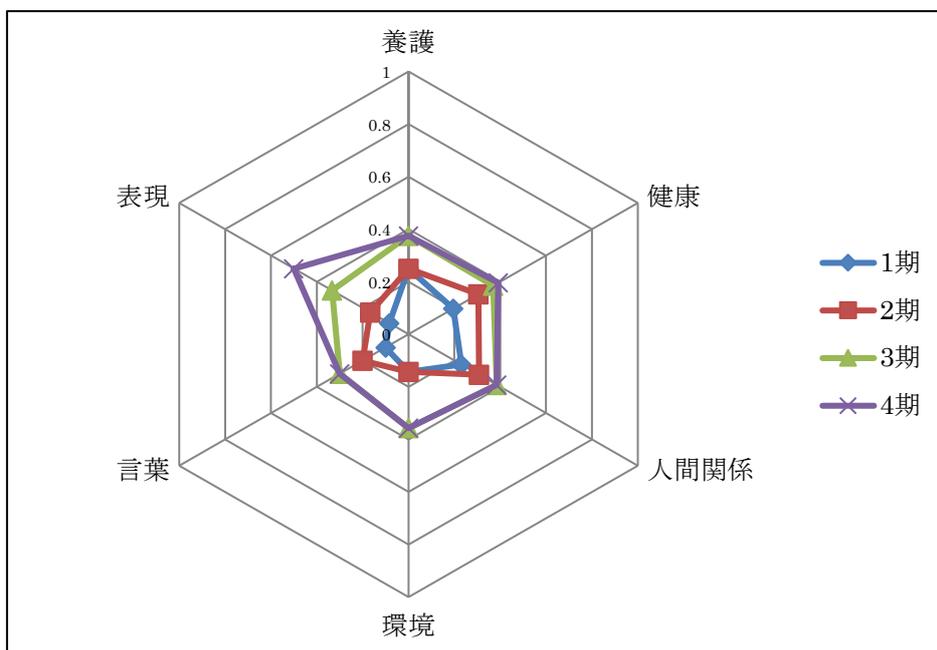
A児の場合にはチャートがアンバランスな形状をしていることから発達の偏りが表れている一方、B児はチャートの歪みが少ないことから均等に遅れがあるというように、チャートの形から双方の発達特徴に差異を確認することができました。また、C児は、養護の部分も低く出ており、要因として保護者にも知的な面での遅れがあることが疑われます。

具体的な事例としては、全体的な遅れに向けて配慮するとともに、ネグレクトの防止に向けた家庭支援についても児童発達支援センターや市などと意思統一しながらフォローしていくとともに、その内容を就学時に学校にも伝達するといった配慮を進めていきました。

図A



図C



③類型別による支援ニーズについて

大分県保育コーディネーターフォローアップ研修にて約30園から寄せられた事例を元にレーダーチャートを作成したところ、チャートの形に応じて幾つかの類型に分けられることに気がきました。以下の4事例を通して紹介いたします。

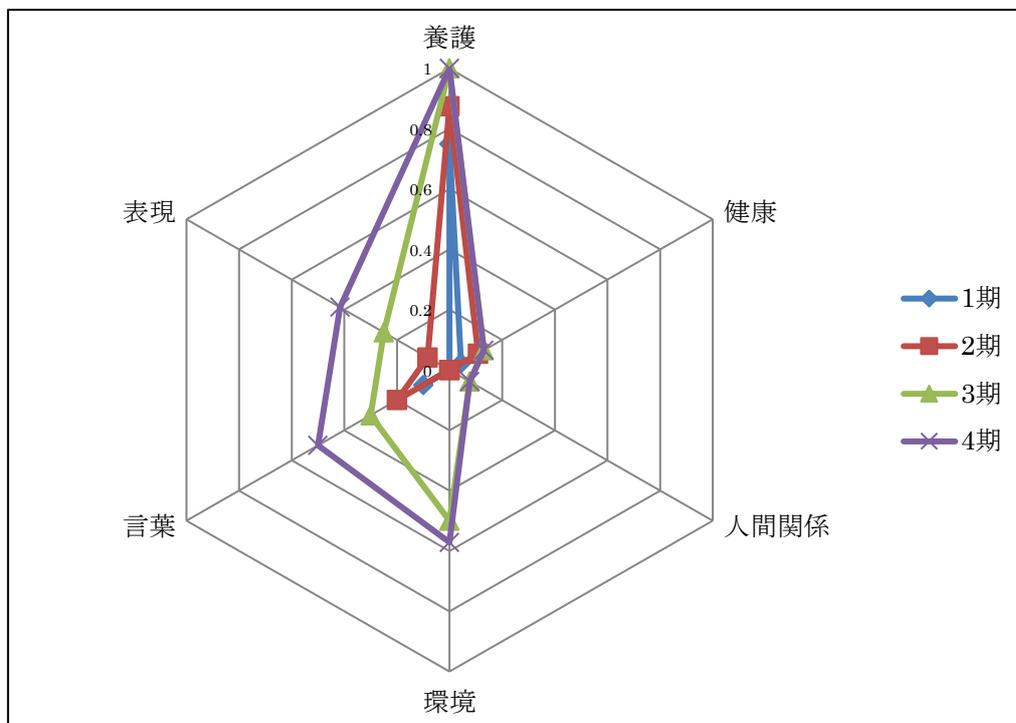
・医療における診断や訓練が求められる児童

図Dのように全体的な遅れとともに、特に言葉や健康面での遅れが目立つ児童は、知的な遅れも疑われます。したがって、このような特徴を有する児童は、保護者をはじめとする周囲も発達の遅れに気づきやすいことから、健診などの場面で早期に医療機関の受診をすすめられ、OTやSTなどの機能訓練をはじめとする療育を受けることが望ましいことが判断されやすくなります。

また、機能訓練とともに、幼稚園や就学に向けて集団適応力を伸ばすために児童発達支援センター等を利用しながら小集団におけるコミュニケーション支援を受けていくことも段階的に検討していく必要もあります。

具体的な事例では、保育園や幼稚園に通う以前から療育機関などで支援を受けているため、保護者をはじめとする関係諸機関から配慮点についての伝達や並行通園から移行に向けて保育所等訪問支援事業などのサービスを通しながら協同的な支援を行いやすくなりました。

図D

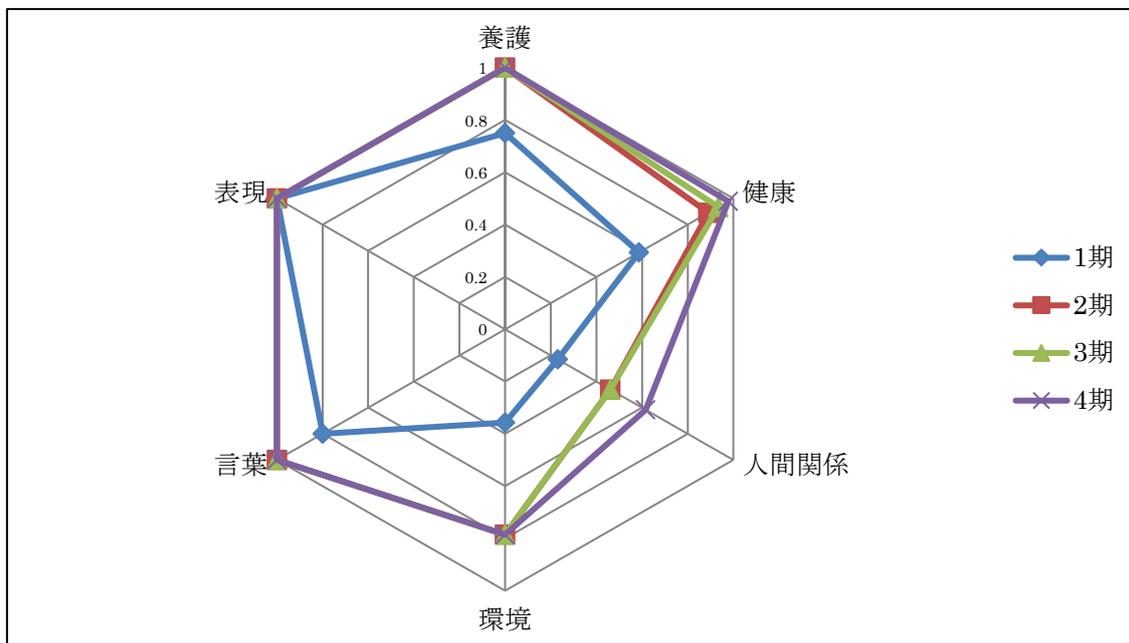


・児童発達支援等の小集団による支援が必要な児童

図Eの児童は言葉や表現、健康面での遅れが目立たないことから知的発達の遅れは疑われないため、健診場面などでは療育にはつながりにくい傾向にありますが、人間関係や環境への適応に遅れが目立つといった発達の偏りが強く出ていることから、幼稚園や保育園等の集団場面において特別な配慮が必要とされていることが分かります。こうしたタイプの児童には医療機関における動作訓練等よりも、小集団に取り出して代弁的なかわりを通した補助自我によるコミュニケーション支援をすすめながら、母体となる園生活に段階的に汎化させていくための仲立ちを丁寧を受けていくことが望ましいと判断することができます。

具体的な事例としては、すでに健診はスルーしており、保育所の集団を通して初めて支援が必要であることに気付きました。そのため、園内の保育コーディネーターが中心となって保健師や児童発達支援センターの職員に相談しながら小集団でコミュニケーション支援を受ける必要性について保護者の理解を得ていき、児童発達支援センターと保育所で協同しながら集団への適応力を伸ばしていくことができました。同時に保護者による本児への理解も深まったことで養護があがり、発達の伸びにもつながっていったものと思われます。

図E



・家庭への支援が優先される児童

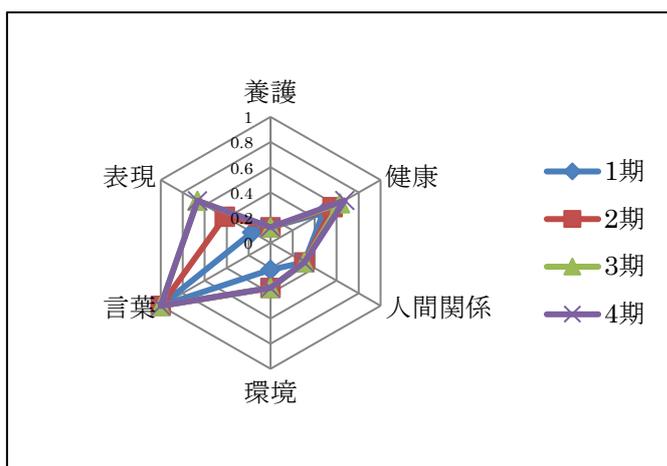
図Fの児童は養護の面の遅れが目立ってみられるため、家庭への支援や母親に向けたカウンセリング支援が求められていることがわかります。そのため、保育コーディネーターを中心に保健師や児童家庭支援員、児童発達支援センターの職員が協働的に親子へのケアを行える体制を整えていくとともに、保育所の退園後も継続的な支援が保障されるように引き継いでいく支援も必要であると判断することができます。

具体的な事例としては、保護者による理解が一向に深まらないまま状態が悪化したため、家庭児童相談員を通して保護に踏み切りました。

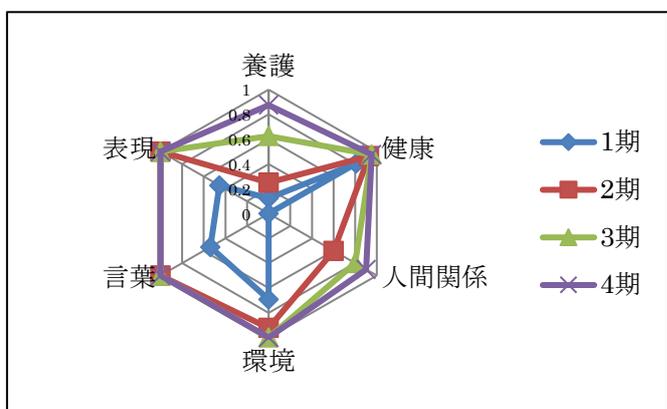
図Gでは、第1期に低かった養護の項目が第2期以降あがっていくと同時に、他の領域部部の成長もみられています。

具体的な事例では、保育園への入所とともに保育コーディネーターが家庭支援を軸に置きながら関係諸機関と連携をすすめていった結果、保護者の負担が軽減され、児童の発達保障にもつなげていくことができました。

図F



図G



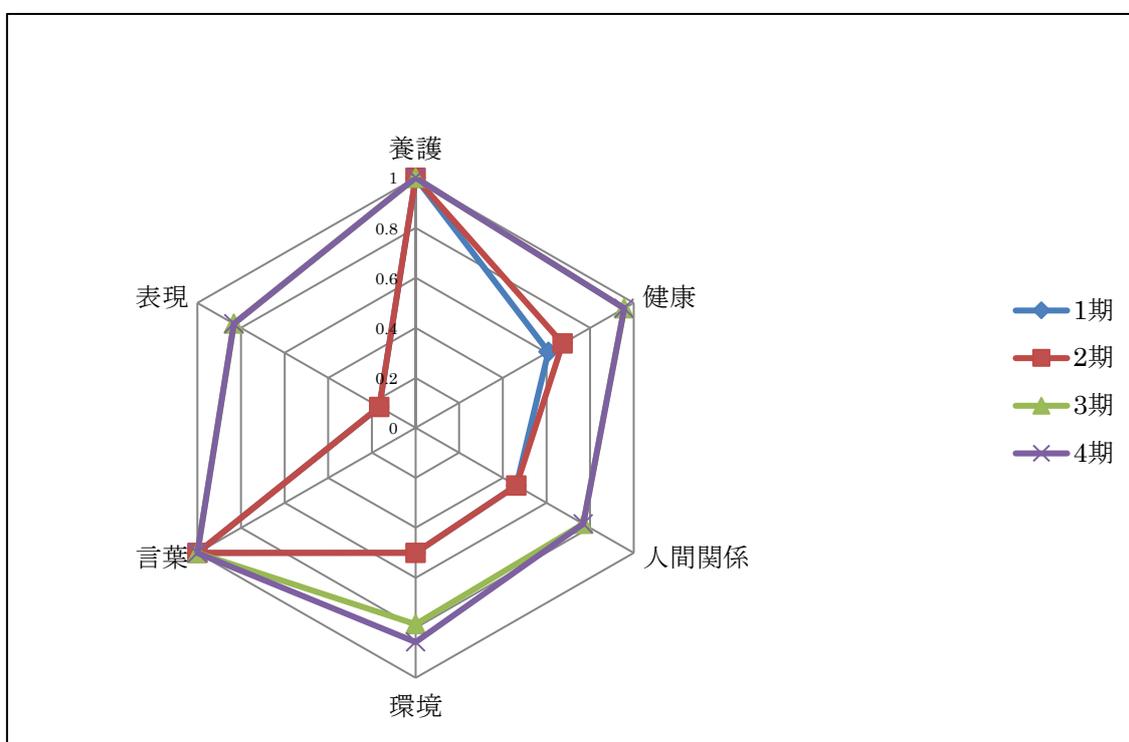
・園内での配慮によって成長が見込まれる児童

図Hの児童は第3期以降に表現をはじめ、人間関係や環境、健康面の部分に伸びを確認することができました。

このように、学校や幼稚園へのつなぎ等、関係機関との切れ目のない支援に向けて、本チャートを通して発達と環境構成との相互作用を具体的に説明しやすくなります。

具体的な事例では、この園が3期に運動会、4期に発表会を行っていることから、行事を通して本児が自信とともに自主性や主体性、協調性を高めていけたことを確認でき、その時期に行った配慮やエピソード等を交えて引き継ぐ内容も絞りやすくなりました。

図H

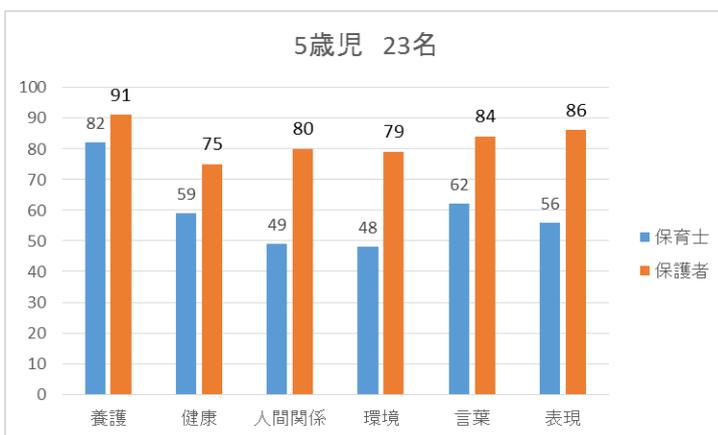
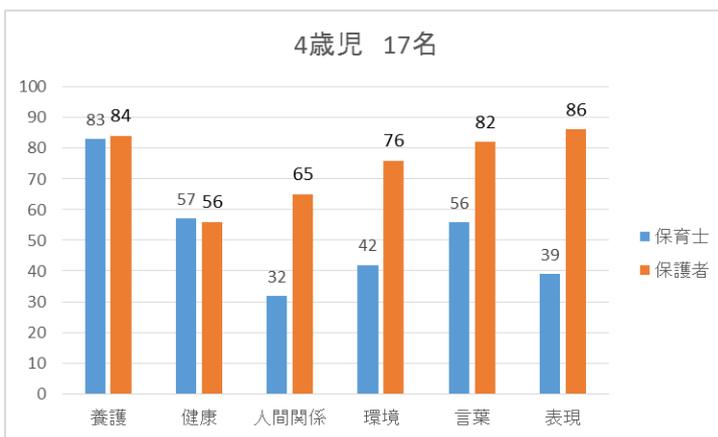
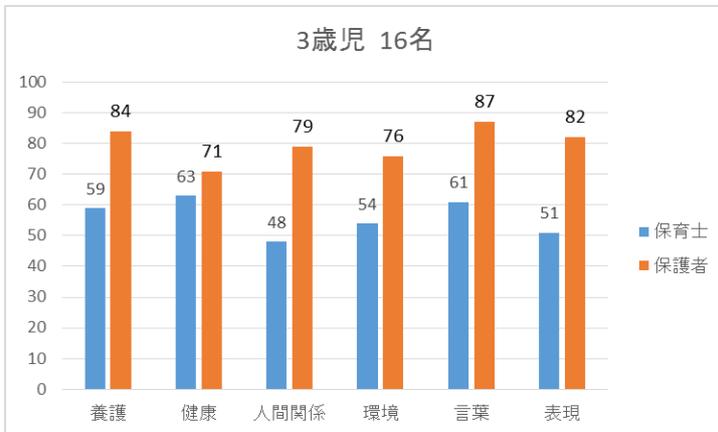


④保護者の変化

保護者が保育者と一緒に発達経過記録を記入してみることで、自分の関わりに多くの気付きを得ることができたようです。

また、何れも保育士よりも保護者の方が○を多くつけるといった結果がみられましたが、保育士はこどもの発達過程に基づいて他児とも比較させるという専門的な見地で記録していることに比べて、保護者側はこどもにかかる期待が高い様子がうかがえます。このズレについては保護者の期待する発達像を共通の目標と捉えることで、保育所と家庭との間で協働的な支援をすすめやすくなっていくものと捉えることができます。

領域別達成度比較表



※ 参考資料：第44回大分県保育事業大会（平成29年1月）第5分科会より抜粋

	記入してみてもお子さんの成長について気づいた点を教えてください。	今後、お子さんの成長にどんなことを期待しますか	ご家庭で気をつけたいことと園に気をつけてもらいたいことはなんですか
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長がわかり、もう少し丁寧な関わり方をしていきたい。 ・家庭よりも園で教わっている事の方が多いと実感。 ・2回目の記入で1回目に迷った所ができるようになっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースで少しずつ成長していける環境作りと情緒の安定、精神面を強くしてほしい。 ・食事のマナー、偏食、人間関係（友だちを大切にすること）、運動面（外で元気に遊べること）を育ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・親が気づいていない子どもの様子を今後も教えてほしい。 ・正しい言葉使いや偏食をなくしていきたい。
4歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・食事面（箸の使い方、野菜を食べる、座って食べるなど）で出来ていないことが多い。家でも根気よく促す必要があると思う。 ・基本的な生活習慣はまだ家では身につけていないものもあるが、友だちとの関わりが深まっているように感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何にでも興味を持ち、自分のやりたい事を見つけ、のびのびと育ててほしい。 ・どうしてそうなるのかを考えて行動できるようになってほしい。また相手の気持ちがわかるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭では自分で出来そうな事は自分です。 ・園では飽きずに集中して1つの事に取り組む。自分の物の管理が出来る様にしてほしい。 ・忙しさから向き合う時間が少なく、すぐ手伝ってしまったりするのがよくないと反省し、気をつけたい。
5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のところで経験させていないことが思ったより多かったので、経験させていきたい。 ・ゆっくりと子どもと向き合える時間がなく、心の安定に結びついていないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まではついやってあげる事が多かったが、小学校前の一年間で、自分の身の周りの事は自分でできるように、自分の物は自分で管理出来る様になってほしい。 ・感じたことやイメージした事を自分なりに表現できるようになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな事にチャレンジさせたい。 ・友だちを大切にすること、礼儀、食事のマナーなど、親とは違った視点からいろいろと教えていってほしい。

※ 参考資料：第44回大分県保育事業大会（平成29年1月）第5分科会より抜粋

6. 成果

保育経過記録を可視化させたことにより、保護者を始めとする関係機関の支援者や園内職員との発達段階の伝達や共有を行いやすくなりました。その中でも特に、レーダーチャートを活用することで発達全般が見やすくなり、課題が見られる領域から保育経過記録の中の下位項目に降りることで保育士の専門的な見地で捉えた発達段階も把握しやすくなったため、個別の保育目標や計画を作成しやすくなっています。

また、個々の課題点や配慮点の違い、優先順位、早期支援の必要性を判断しやすくなるとともに、レーダーチャートの形による類型を行うことができたことから、今後もデータを増やしていくことで同じ事例への配慮や対応方法についての見通しを持ちやすくなることが予測できます。

本研究を進めていく中で、記録者側の課題として、各項目の達成度に向けた判断や方針、関わりの意図や具体的な配慮点などを共通理解するための解説書を作成する必要があることに気付きました。そのため、今後、園内研修を通して新しい保育所保育指針等に基づいた解説書を園用に作成することも検討しているところです。

その際には、各項目の達成意図や園内での取り組みについて、日常の教育保育から行事における計画や評価に反映していること等を担任が保護者に丁寧に説明していった経過や、本経過記録をもとにして保育コーディネーターを中心に児童発達支援センター等の専門機関と協働支援を行った成果や就学前後の引き継ぎに際しての効果等についても考察をすすめていきたいと考えています。

参考文献

幼保連携型認定こども園教育・保育要領/内閣府、文部科学省、厚生労働省
保育所保育指針解説/株式会社フレーベル館
保育経過記録用紙/大分県保育士会